

宮沢賢治と保阪嘉内

社会福祉法人ぶどうの里
名誉理事長 田ヶ谷雅夫



4 月 8 日のあさひ交流会では大変楽しく過ごさせていただきました。実はその際、宮沢賢治さん(以下敬称略)のことを皆さんにお話ししたかったのですが、津久井やまゆり園事件の方が緊急性が高いのでそちらのお話しとなりよしたが、今回あさひ便りに執筆のご依頼を島武代先生から受けたので、紙面で少しお話しさせていただきます。

ご存じかと思いますが、青春時代(盛岡高等農林学校、今の岩手大学)学生だった宮沢賢治と葦崎市駒井出身の保阪嘉内との間には深い友情が交わされていました。かれらの親密な友人関係は、賢治の一生にわたる生き方・人格形成に大きな影響を与えました。それは、賢治が嘉内にあてた 73 通の手紙で明らかです。(賢治は生涯、日記はつけていません。ただ小型の手帳が 14 冊残されているだけです)二人は学内同人誌「アザリア」を刊行していますが、嘉内の筆禍事件により、彼は学校を除籍されてしまいました。賢治は必死になって失意の嘉内を慰め、励まし、そして法華經入信を強く勧めるのですが、嘉内の家は元々神道に帰依しており、結局賢治と嘉内はそのことが元で、友情は永久に断ち切れてしまいます。まさに青春の悲哀のひとこまでした。

しかし、二人の友情の痕跡は、あとあと賢治の童話にいろいろな形で見受けることができます。例えば童話「銀河鉄道の夜」の舞台は、葦崎市七里岩の台地のようで、それは嘉内から賢治に伝えられたイメージが原型のようです。また童話「風の又三郎」に出てくる同級生の「嘉助」は「嘉内」から取られたように思えます。そして嘉内のめざした理想の「花園農村」の構想は、賢治に逆に伝えられて、後年賢治が東北農民救済運動へ導く元になっているようです。

宮沢賢治と保阪嘉内の友情は消えこそすれ、かれらの短かった人生にお互い大きな影響を与えあったのでした。なお賢治は日本最初の園芸療法の実践者でもありました。例えば賢治は花巻町立病院の中庭に花壇設計を行い、めずらしい花を沢山植えて入院患者さんたちの慰めとしました。花巻市郊外にある花巻温泉の付属公園でも遊歩道を設計し、つらい農作業のあと湯治にやって来る貧しい東北農民たちの癒しともしました。それに国立盛岡少年院では賢治設計の「涙一杯の目」というテーマの花壇を教官と少年たちが一緒になって制作し、それは今も非行少年更生の励ましとなっている由です。

そして賢治晩年、東北農民の貧困対策として炭酸石灰セールズ販売事業に熱中し、結局はそれが命取りとなってしまいました。宮沢賢治 37 年の短かい人生は、人々の幸せに役立ちたい「ねがい」に貫かれていました。それは嘉内も全く同様でした。しかし、賢治は決して世に言う偉人でも聖人でもないと思うのです。二人とも若さのあまりか、社会的には

何をやっても思い通りにならず、中途半端で、ただ自分が正しいと思った道をどこまでも愚直に歩いて行っただけでした。賢治が、そして嘉内がもっと要領よく立ち回ってくれていたら、もう少し長生きでき、結局彼らの理想とした途を歩き抜いて行っただけのことでしょう。賢治、そして嘉内(41 歳、胃ガン死亡)たちはどんな思いでこの世を去って行ったのでしょうか。実はかれら二人は「やるだけの事はやった」という深い満足感に包まれてこの世を去っただろうことが、せめてもの私の慰めであります。

病(いたつき)のゆえにも朽ちん命なりみのりに棄てばうれしからまし (宮沢賢治絶首)

2017年9月

保阪嘉内

宮沢賢治



山梨日日新聞

宮沢賢治ゆかりのイーハトーブ賞

色川大吉さん(北杜)受賞

奨励賞に渋谷りつ子さん(甲府)

宮沢賢治の精神に通じる実践活動に贈られる第27回イーハトーブ賞(岩手県花巻市主催)

僅に、北杜市在住の歴史家色川大吉さん(92)が選ばれた。日本近代史をとらえ直す中で賢治を考察したことが評価された。奨励賞には、インドの障害者支援施設で25年間にわたり無償奉仕を続けている渋谷りつ子さん(57)＝甲府市＝が選ばれた。

イーハトーブ賞は1991年、賢治の生誕地である花巻市が創設。毎年、宮沢賢

治学会イーハトーブセンターが会員や有識者からの推薦に基づき選考し、研究や評論、創作を対象とした宮沢賢治賞と合わせて表彰している。

色川さんは民衆の立場から日本近代史をとらえ直す活動が続け、明治時代に民衆が主体的に作った憲法草案を掘り

起こした。賢治に関する論考や著書も発表し続けており、「民主主義の意味を問いつけ、近代を超えるものは何かという視点で賢治を考察してきた業績は大きい」と評価された。

色川さんは「歴史家が宮沢賢治を論考したことが珍しかったのかもしれない」と話している。

渋谷さんは「歴史家が宮沢賢治を論考したことが珍しかったのかもしれない」と話している。

〈高野芳宏、中嶋寿美子〉

起こした。賢治に関する論考や著書も発表し続けており、「民主主義の意味を問いつけ、近代を超えるものは何かという視点で賢治を考察してきた業績は大きい」と評価された。

色川さんは「歴史家が宮沢賢治を論考したことが珍しかったのかもしれない」と話している。

渋谷さんは「歴史家が宮沢賢治を論考したことが珍しかったのかもしれない」と話している。

渋谷さんはインド・コルカタの「マザー・テレサの家」で重度心身障害児の生活介助に取り組んでいる。渋谷さんは「当たり前のことをしているだけ。子どもたちからは笑顔や言葉にならない『ありがとう』を受け取っている」と話している。

〈高野芳宏、中嶋寿美子〉

“あさひ”の今

NPO あさひ理事長 昆善起



NPO あさひ（あさひテレサホーム）の理事長を5月の総会で受けることになり、はや4ヶ月を過ぎようとしています。この清里の麓の季節では、八重桜が咲く頃から秋へと移り変わる頃となります。時の移ろいの早さを感じるのも、年齢からの来るものなのか、慣れない役目からくることなのか。

さて、グループホーム「あさひテレサホーム」の利用者さんは、概ね元気に過ごしていますし、仕事もこなしています。一名Mさんは、8月の半ばに体調不良のために蕪崎の病院に入院しましたが、この『あさひ便り』が出る頃には退院して元気になっているでしょう。

「あさひ」ではこの8月は、10日～22日の間に3グループのボランティア団体を受け入れました。最初に社会福祉法人「親隣館」・「賀川記念館」グループ、そして入れ違いに社会福祉法人「雲柱社」グループ、最後「慶応義塾大学」の学生さんたちグループでした。この夏は天候不順の中、皆さん本当によく働いて下さり感謝でした、ありがとうございました。

毎回、ホームの利用者さんたちには、ここでの共働作業、そして交流会は楽しい時間であり、待ちどおしい8月のイベントです。来年もよろしくお願いします。

前号で就任挨拶の中で福祉については、全くの素人であることを申し上げました。それで少しでも学ばねばならないと思い、福祉関係の本を探してみました。そうすると、高校生向けの「社会福祉の基礎」という本を見つけ読んでいたのですが、これが私にはピッタリでした。70歳を過ぎると、難しいのは厄介で、ご勘弁です。その中に、次のような文章がありました。

＜福祉という言葉の語源は『漢字語源辞典』（藤堂明保著）によりますと、『福』とは「神の恩恵により豊かに恵まれること」であり、富んでいることであり、腹が満ちている状況を示している。「祉」とは、「神がそこに足を止めたもう」状況を示している。従って、「福祉」とは、神の加護の下で幸せな生活を営めることといえる。＞これに、ハタと気づきました、前理事長の島武代さんが「あさひテレサホーム」と命名されたことの思いに。勿論、これはカトリックの聖人マザーテレサからいただいた名前です。

利用者寮生さんが、幸せな生活が営むことの出来るホームであることを願ってのことと思います。それは私も同じ思いで、つないで行きたいと思っています。

「あさひ福祉作業所」、現在これは島武代さん個人の事業です。これを「NPO あさひ」のもう一つの事業として、公的支援を受け、地域に開かれた「障がい者就労継続支援B型」として受け継いでいく決断をし、準備をしています。先には



守屋 勝さんが育てているバラです♪

様々な難関がありますが、それを越えて進めて行くつもりでいます。まず障がい者通所施設を設けねばなりません、土地の準備は出来、施設は、東日本大震災で被災された方々が利用された、仮設住宅を再利用出来ることから、福島県から無償でいただくことになっていました。しかし、解体そして北杜市への搬入の費用は、当然のことながら負担せねばなりません。そして組み立て費用、お金があつて始める事業ではなく、多額な費用負担には耐えられません。ハリウッドデザインという設計屋さんに、解体移設工事の見積依頼をしましたが、新設するほどの金額で、とても用意出来る金額ではなく、断念しました。福島県土木部建築住宅課の関係者の皆様には、本来なら他県の者に、無償譲渡などは考えられないところを、「NPO あさひ」の事業計画のためにと、許可を頂くことが出来たにも拘わらず、このようなことになり、ご迷惑をおかけして、誠に申し訳なく思っております。この紙面をお借りして、謝罪申し上げます。

「NPO あさひ」としては、立ち止まっているわけにはまいりません。**地産地消**の観点から、(売店「ぶーこっこ」の入口に掲げています。)地元工務店に設計・施工をお願いすべく、見積り依頼を出しました。予算規模は、1,500万円です。銀行からの借入金、皆様方から無利息の融資金(返済金)、寄付金を募り、賄ってまいりたいと考えています。

「NPO あさひ」が行う、地域に開かれた「障がい者就労継続支援B型」の計画事業に御賛同頂けましたら、どうか協力をお願い致します。



清里”清泉寮 “近くの散歩道にて...

ぶーこっこ広場

特定非営利活動法人あさひ

理事 岡本隆光

ぶーこっこ広場のお披露目を6月18日に開いてから早や、2ヶ月以上が過ぎていきました。小学生のお友達も仲間になっています。芝生も緑に覆われてきました。植えた百日紅の花がきれいなピンク色でした。寮生の一人が植えたイチヂクの木に、小さな実が着いています。

そう、ぶーこっこ広場は大地に根ざしていることを実感できる至福の時です。

これから何をしようかな、と思うとき、何よりも広場の芝生に寝そべて、やがて起き上がり四方を見渡すと、広場のあちこちから色んな声が聞こえてきます。

腰を下ろして休めるベンチが欲しいなー！
テーブルがあると、お弁当やお茶が飲めるよ
水辺があると、色んな虫やトンボや鳥が集まってくるよ！

待って！待って！いっぺんにそんなには出来ないよ。少しずつしていくから、待ってて下さいね。

そして、色んな人が 赤ちゃんからお年寄りまで、体が丈夫でない人も、心が疲れている人も、ここに来れば安らげる場所を目指すからね・・・



あさひの水田・大豆畑から

あさひ米の会より



さあー！今年の稲はモミから発芽させて苗を育て、田植えを一と取り組みましたが、発芽で失敗！急きょ、農協の硬化苗を注文しました。

そのため、5月下旬の雲柱社の皆様による田植えワークキャンプは出来なくなり、ぶーこっこ広場のティピー（インディアンの移動テント）造りと芝張りになりました。

田植えは6月10日に実施、その後はチェーン除草を3回行い、現在は順調に育っています。周りの田んぼより遅れてはいますが、穂が出そろっています。

（うるち3反2畝、もち1反2畝）

大豆畑（1反2畝）は、去年の二の舞を踏まないように一と心がけ、除草に精を出しました。順調に育ち小さなさやをつけています。

6月から7月の晴天続きで、水不足を心配しましたが、この地区は豊富な水量に恵まれました。又、8月の雨天と曇天で日照不足の懸念がありましたが、持ちこたえました。

12月のもちつき交流会には、皆様に新米がお届けできることでしょうー。又、大豆は味噌作りに、この春には200kg仕込みましたが、来春は300kgに挑戦し、美味しい味噌を販売していきます。



文責 島 武代

朗読劇に挑戦！

下條先生と共に

特定非営利活動法人あさひ

理事 島 武代

あさひテレサホームの仲間 10 名は、今年 4 月より下條順子先生のご指導のもと、＜上人塚＞というこの高根町に伝わる民話を朗読劇にして、来年 4 月の交流会に発表すべく取り組んでいます。今日 9 月 18 日は、＜民話の里を訪ねて＞(高根町の一部)という企画をして下さり、村山西割無頭坊上人塚へ、次は鈴石さま、下黒沢原山神社、そして鎧堂観音、下蔵原お観音と見学してきました。17 日の台風 18 号通過の今日はすがすがしい気候のもと、身近な場所であるにもかかわらず、立ち止まることもなく通り過ぎていた上人塚、観音様、馬頭観音とじっくりとながめることが出来ました。又、鎧堂観音様では小休止をとり下條先生の冷たい飲み物をごちそうになり、午後のひとときを心豊かに過ごすことが出来ました。



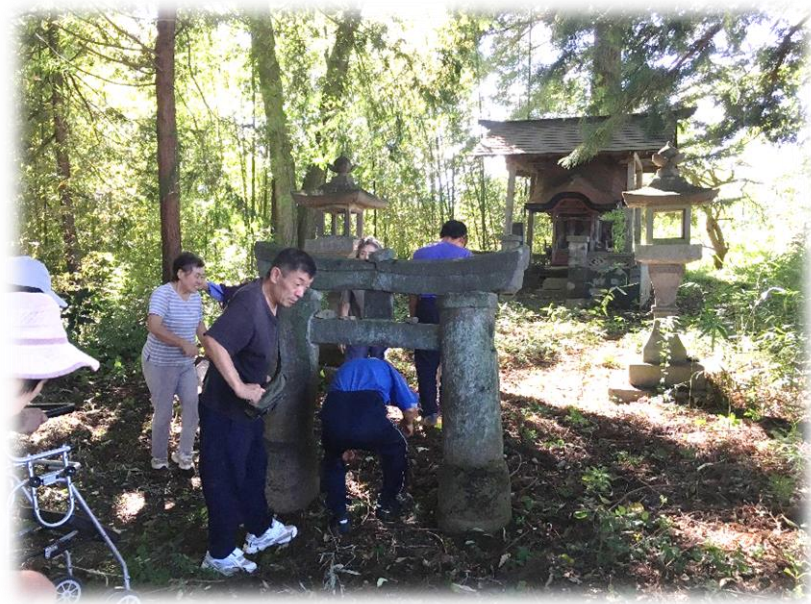
村山西割無頭坊上人塚

下條順子先生！すてきな時間をありがとうございます。





下條先生とともに！



いい事有るかな〜♪

“やさしくね、やさしくね、やさしいことはつよいのよ”

スタッフ 中山正博

8月6日に静岡県のグランシップ大ホールで、“音楽の広場 2017”が開催されました。10周年記念ということもあり山梨県の渡辺公男先生率いる合唱団（富士吉田市民合唱団・ステラ合唱団・富士山麓児童合唱団）も招待され、オーケストラと合唱団（県民のアマチュアの方々が中心で公募された方々）合わせて700名を超える壮大な真夏の音楽祭にステラ合唱団の一員として私も共演させていただきました。その中で同じように特別参加されていた“宮城まり子とねむの木学園”の皆様とも合唱と手話で共演させていただいたのですが、90歳になられるまり子さんが凛として車いすに座りながら舞台上でしっかりとした声で学園の皆さんと親子のような会話をされていたことが、非常に印象的で感動したのでこの場で共有できればと思います。リハやゲネプロでは司会の堀尾正明さんに支えられながらも立ち上がる場面もありました！1曲目はセント・ルイス・ブルース・マーチの手を使ったタップダンスの見事さと、2曲目はソプラノ・アルト・テノール・バスと4名（としみつ・つとむ・たいすけ・あい）の方が合唱したモーツァルトのピアノ協奏曲に乗せた“少年”の歌声に、3曲目は“幸せは樹のように”手話を交えながらの合唱、学園生から始まり合唱団へと手話の輪が波紋のように広がり、感動の渦の中に3000人を超える観客の皆さんを巻き込んでいました。このグランシップという箱舟のようなホールが世界の平和の縮図のような…そんな広がりをもっているよう



でした！これはまさに“音楽の広場ではなく音楽の宇宙”という解団式で語られた言葉が物語っていました。

・・・宮城まり子さんが舞台上で語られていたこの言葉“やさしくね、やさしくね、やさしいことはつよいのよ”に、その場に居合わせていたすべての人にそれぞれの形で心に響いていました、やさしい音楽が心にしみこむように・・・。

Program

※携帯電話やアラーム音等が鳴らぬようご注意ください。
※放送中の写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。

第一部

- 鈴木V.シラー 作曲L.v.ベートーヴェン
交響曲第9番「合唱付き」
第4楽章より（歓喜の歌）
ヴァイオリン：橋本 幸弘
- G.ヴェルディ
歌劇「トロヴァトーレ」より
“鍛冶屋の合唱”
- P.サラサーテ
ナヴァラ
ヴァイオリン：橋本 幸弘
- G.ヴェルディ
歌劇「アイーダ」より
凱旋行進曲
- F.レハール
歌劇「ジュディッタ」より
“私の唇に熱き口づけを”
ソプラノ：吉田 雄代
- G.プッチーニ
歌劇「トゥーランドット」より
“誰も寝てはならぬ”
テノール：橋本 幸弘

第二部

- G.F.ヘンデル 編曲：森 英明
「王宮の花火の音楽」より
第4楽章「歓喜」
- 作詞：鎌田 忠良 作曲：中田 喜直 編曲：森 千尋
霧と話した
ソプラノ：吉田 雄代
- 作詞：寺山 修司 作曲：中田 喜直 編曲：森 英明
悲しくなったときは
テノール：橋本 幸弘
- 作詞：林 古溪 作曲：坂田 為三 編曲：森 千尋
浜辺の歌
ソプラノ：吉田 雄代 テノール：橋本 幸弘
ヴァイオリン：橋本 幸弘
- O.レスピーギ
「ローマの松」より
“アッピア街道の松”
- 作詞：小椋 佳～門谷 善二
作曲：小椋 佳～ミッキー吉野 編曲：森 英明
シクラメンのかほり
～君は薔薇より美しい
歌：森 英明
ヴァイオリン：橋本 幸弘
- P.サイモン 編曲：森 英明
明日に架ける橋
歌：森 英明
- 原詩：万葉集より山部赤人/作曲：G.ホルスト
編曲：鈴木 行一 森 千尋 歌詩：横成 井上 頌一
組曲「惑星」より「木星」
～不尽の山を望る歌
全員

指揮：広上 淳一
副指揮：菅古 恵理香 / 佐藤 秀義
管弦楽：グランシップ音楽の広場オーケストラ
合唱：グランシップ音楽の広場合唱団
富士吉田市民会館、ステラ会館

私はこのあたり
におります！

突然ホール内に現
れてホール上空を
飛んでいました



編集者の独り言

中山正博

今年は私事ですが、1957年7月4日生まれと言うことでいわゆる還暦を迎えました。特に何が変わるわけではないのですが…不思議なことに一つの区切りのような年になっています。その締めくくりですが12月3日には大阪城ホールで開催される“サントリー1万人の第九”に“ステラ合唱団”を主なメンバーとする“富士山山梨第九合唱団”の一員として、団体申し込みで抽選の結果参加できるようになったことです。今年は、山梨県の合唱祭に始まり静岡のグランシップ音楽の広場、河口湖音楽祭。この先は、みんなのコンサート、サントリー1万人の第九、河口湖BELLEセントラルコートでの単独コンサート等々に参加させていただく予定で、仲間とともに合唱できる幸せをかみ締めしております。NPOあさひにおいても来期からは新事業が始まろうとしています、公私共に新たなラウンドに入りますので身を引き締めながらも大きな飛躍をもって新たな扉を開いていきたいと思っています。今後とも“あさひ便り”をよろしくお願い致します。

あさひテレサホームの世界に入って

NPO あさひ スタッフ 吉田 誠



この7月から週1日だけですが、事務の仕事させていただくことになりました。まだ10回のお付き合いです。入居者の皆さんとは初日の昼食の時に顔を合わせましたが、その場の雰囲気戸惑い、今後皆さんと馴染んでいけるのか不安を感じました。しかし、次の出勤日には「お昼一緒に食べる？自分の茶碗持ってきた？」と暖かく迎えてくれました。また、帰りには、「来週も来る？じゃあまたね」と笑顔で見送ってくれたりして、気持ちが楽になりました。このまま仲間にしていただければ幸いです。皆さんそれぞれ出来ることは違いますが、素直に自分なりに頑張っている様子を見ると、癒されることが多々あります。

新任スタッフ紹介

☆ 吉田 誠

2017年7月より NPO あさひ 事務スタッフ新任



僕もスタッフです！♪

平成 28 年度会計報告

	収 入	備 考		支 出	備 考
正会員費	80,000	8名	人件費	7,387,116	
賛助会員費	550,000	110名	通勤費	252,680	
寄付金	96,500		社会保険料	513,784	
介護報酬費	11,335,460		福利厚生費	142,646	
利用者負担金	6,504,964		オンブズマン費		人件費へ
私的契約者負担金	56,800		旅費交通費	8,230	
利用者行事参加費	9,240		車両費	84,838	
受取利息	21		通信費	212,514	
雑収入	126,730		消耗品	33,314	
			修繕費	19,656	ボイラー
			食材費	2,903,215	
			水道光熱費・新聞図書費	1,577,424	
			日用品費	269,122	
			家賃	2,220,000	
			寄付金	10,000	
			ケーブルTV費	22,800	
			ホームページ関連費	326,374	
			印刷製本費	94,266	コピー
			リース代	869,981	
			商工会費	48,000	
			支払手数料	16,034	
			雑費	23,945	
小 計A	18,759,715		小 計B	17,035,939	
前年度繰越金	631,416		A-B	1,723,776	
			次年度繰越へ	2,355,192	
合 計	19,391,131		合 計	19,391,131	

★第 16 回あさひ交流会（もちつき）のお知らせ★

日 時 平成 29 年 12 月 9 日（土）

午前 10 時～午後 2 時

会 場 あさひテレサホーム

あさひ福祉作業所

山梨県北杜市高根町村山北割 86-6



特定非営利活動法人あさひ あさひテレサホーム

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

<http://www.asahi-teresa.com>

TEL 0551-47-3950 FAX 0551-47-4414

asahi-fukushi@cd.wakwak.com

賛助会費（5000円）＆寄付金等 特定非営利活動法人あさひ

★郵便局振込★ 00220-1- 98254

★他銀行振込★ 当座 0 二九 0098254

編集者：中山 正博